

# 国予算22兆円繰り越し

## コロナ対策規模ありきの補正

政府が2021年度の予算を使い切れず、約13%にあたる22兆4272億円を繰り越した。使う必要がないとして繰り越さない「不用額」も6兆3028億円にのぼり、過去最大だった。巨額の繰り越しは2年連続。コロナ禍の経済対策など、規模ありきの補正予算も影響しており、検証は不可欠だ。

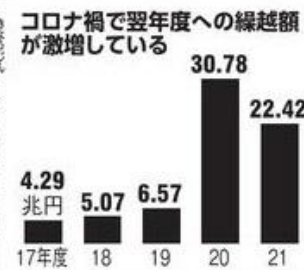
繰り越しの内訳は公共事業前までは予算の繰り越しは業関連が4兆円で最も多か3兆6兆円ほどで、「不

った。コロナ関連では、飲食店への営業時間短縮の協力金が3兆6千億円、地方の単独事業が1兆8千億円、無料検査が3千億円、売り上げが減った中小企業に補助金を出す事業復活支援金が2兆3千億円など。総額は、20年度の30兆7804億円に次ぐ2番目の大きさだ。

不用額は、実質無利子無担保融資が2兆円、観光支援策の「Go To トラベル」が9千億円、コロナ予備費が4千億円だった。

政府の予算は、憲法で年度内に使い切ることを原則としており、「単年度主義」と言われる。コロナ禍

は増加傾向にある。「国



土強靱化緊急対策」などに充てられ、20年度は補正予算に3兆2千億円を計上。当初予算6兆1千億円の半額以上になる。

補正予算は12月から翌年2月に成立することが多

く、実際の工事契約が翌年度にずれ込みやすい。繰り越しされる予算の割合は、ここ数年は3割台に上る。

20年度は35%と、東日本大震災直後に工事が滞った12年度(37%)に次ぐ水準だった。

もともと公共事業は工事が予定通りに進まず、翌年度に繰り越されやすい。近年は自然災害の多発で工事が止まったり、原材料高の

あおりで予算内での調達が難航したりする可能性も高まっている。繰り越しを前提にした補正予算での事業が増えると、不測の事態で工事が進まなかった場合、

予算自体が使われなくなるケースも増えかねない。工事が先延ばしされると経済効果が出るのも遅れる。

法政大学の小黒一正教授は「経済対策〇兆円など、先に規模ありきで補正予算を組むので、巨額の繰越金につながっているのではないかと。コロナ禍とはいえず、こうした事態を繰り返さないように、よく検証するべきだ」と指摘する。(西尾邦明、高木真也)